

令和元年度 第2回弥富市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和2年3月4日(水) 午後3時00分～

2. 出席者 市長 安藤正明 副市長 大木博雄
総務部長 渡邊秀樹
教育委員会
教育長 奥山 巧 教育長職務代理者 伊藤昭三
委員 浅野美喜子 委員 鈴木由美
委員 阿部康治

3. 説明者 教育部長:立松則明 ・教育部次長:伊藤武司 ・学校教育課長:渡邊一弘 ・
生涯学習課長兼総合社会教育センター館長兼十四山スポーツセンター館長
兼南部コミュニティセンター所長兼白鳥コミュニティセンター所長兼十四
山公民館長:山森隆彦 ・図書館長:服部朋夫 ・歴史民俗資料館長:伊藤
隆彦 ・学校教育課主幹:藤澤太一

4. 議 題 (1) 弥富市公共施設再配置計画(案)について
(2) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
(3) 令和2年度施行 学習指導要領改訂に向けた取り組みについて

5. その他

.....○.....

1. 開会

○ 学校教育課長より まもなく定刻でございます。よろしくお願ひいたします。まずは
会が始まるにあたって、資料のほうを確認させていただきます。初めに次第、名簿、弥
富市公共施設再配置計画(案)、弥富市令和元年度全国体力運動能力運動習慣等調査結
果概要、弥富市令和2年度学習指導要領改定に向けた取り組みについて、最後に配らさ
せてもらっておりますけれども本日より行っております自主登校教室の出席状況の数字
の表がついております。よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。それではただ今

より令和元年度第2回弥富市総合教育会議を開催したいと思います。始めに安藤市長よりご挨拶を申し上げます。

.....○.....

2. あいさつ

- 市長より 皆様こんにちは。本日は第2回総合教育会議を開催します。大変足元の悪い中、またお忙しい中、教育委員の皆様にはご出席をいただきましてありがとうございます。それでは新型コロナウイルスの関係でございますが国内で感染が広がる中でございますが、本市も感染防止に向けて緊張感を持って対応対策にあたっているところでございます。また小学校、中学校の対応に当たりましては教育委員の皆様にもご尽力を賜っておりますことを心り感謝を申し上げます。ありがとうございます。昨日は中学校で卒業式が挙行され、晴れやかな表情の子供たちが学舎から巣立っていったことと思いますが、本当に寂しい卒業式であったなと思う次第でございますけど、これも長い人生の中では一つのいい思い出になればということで、子供たちの健やかな成長、そしてまた今後の活躍を期待することでございます。また教育現場ではいろいろな課題があると思っておりますが本市におきましても他ではありません。本日の会議では弥富市の教育の現状と課題、そして将来ビジョンを話し合う場でございます。弥富市の子供たちの未来に向けて有意義な意見交換となりますようお願いを申し上げましてあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。
- 学校教育課長より ありがとうございます。それではここからの議事進行につきましては本会議の招集者であります、安藤市長のほうにお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

.....○.....

3. 議事

- 市長より それで議事進行に努めてまいりたいと思いますが、ここからは着座にて失礼をいたします。まず初めに議題（1）弥富市公共施設再配置計画（案）について、大木副市長よりこれまでの計画、市の考え方について説明をしていただきます。

○ 副市長より 公共施設再配置計画（案）について説明をさせていただきます。今まで平成30年度、今年度31年度の2年間に渡って、11回に渡って内部で議論をさせていただきました。また一般応募者33名の参加により「未来につなぐ公共施設を考える」のワークショップを3回行っております。それぞれ4グループからそれぞれのテーマで提言をいただきました。さらに有識者による弥富市公共施設マネジメント推進委員会からも多数のご意見をいただいて、公共施設の再配置計画案をまとめさせていただきました。全国的に少子高齢化が進行し、さらに団塊の世代が高齢期を迎え、社会福祉にかかる費用の増加は年々加速するといった傾向がございます。一方人口減少に伴いまして税収の減少が予測されております。さらにこれまで建設された公共施設等が改良更新の時期を迎え、こうした更新費用等が市の財政に大きな負担となり、他の市民サービスへの影響が大きくなることが予測されております。このような背景から平成26年度に総務省から各自治体に公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針が示されました。弥富市は平成28年3月弥富市公共施設等総合管理計画を策定させていただき、この計画に基づいて少子高齢化社会に対応したサービス向上と将来世代への負担と軽減するコスト仕組みを考慮し、より魅力ある街とするための適正な配置を目指し、40年間で10年ごとの4期に分けての公共建築物の再配置計画案として今回まとめさせていただきました。対象とする施設につきましては、基本的には延床面積100平方メートル以上のうち68施設とさせていただきます。今後40年間でこれらの全ての公共施設の構築をしようとするすると、それぞれの再配置計画の11、12ページをご覧くださいとわかりますが、515億9千万円の費用が必要と見込まれております。一応、公共建築物に充当できる見込額につきましては道路共有インフラの更新については除外できませんので、過去の実績からインフラ更新を除いて年間4.6億円、約4億6千万円。40年間で184億円しか賄えないということで、先程の515億9千万円からしますと、332億円といった金額の不足となってまいります。また現在あります全ての公共施設を40年間維持管理しようとするすると、光熱費や維持管理費にかかる委託費用、運営にかかる人件費等は過去の平均から年間22億3千万円、40年間で892億円が必要になると見込んでおります。現在ある公共施設のうち重複している施設、不要となる施設等を継続せずに縮減できればこれらの施設の維持管理にかかる費用を更新費用に充てるのが可能となってきます。これらのデータから導き出されたのがお

手元の資料にございますように公共建築物の統廃合や再配置等により延床面積を23.6%を削減できれば必要な更新費用を賄うことができるのではないかとということになりました。こうしたことから原則として他施設との統合、複合化や減築等の検討を行って、施設総量の縮減を図ることとし、68ある施設を12の施設類型に分けまして、それぞれの施設の今後の考え方を案としてまとめさせていただきました。それぞれの施設の考え方についてはお手元の配置計画案の重要事項に記載をさせていただいております。その中の学校教育系施設につきましては、小学校8、中学校3の計11学校でございますが日の出小学校、弥富中学校以外はそれぞれ50年以上経過している校舎もございまして老朽化が進んでおります。また児童生徒数につきましては、600人から90人と学校によって大きな差がある状況でございます。こうしたことから小学校につきましては、8小学校のうち、少子化傾向にあります十四山東部、十四山西部、大藤、栄南の各小学校区の小学生、保育所の保護者、合計482人の保護者の方に子供の教育環境に関するアンケートを行わせていただきました。94.8%にあたる457人の保護者の方からご回答をいただきました。その中で令和7年度には大藤では115人、栄南では79人、東部では113人、西部では66人となる見通しの見込み数から、今後子供の教育環境にどう対応していくのが好ましいかという問がございまして、その問に対して「わからない」と回答した人を除いた379人中、「現状維持」と回答された方が32%ございました。「統合」が35%、「学区再編」が32%となり、児童数が少ないことは好ましい状態ではないと思っている保護者の方が、「統合」「学区再編成」を合わせて67%でございました。同様に十四山中学校の教育環境に関するアンケート調査も実施させていただき、十四山中学校、東部小学校、西部小学校、十四山保育所の児童生徒保育所児の保護者、及び十四山中学校区内におみえになります、日の出保育所、弥富はばたき園の園児の保護者にも行いました。対象者は311人ございまして、94%の293人の保護者からご回答いただきました。令和8年度からは90人台になり、令和13年度には70人台になるとの学年別の生徒数を示させていただき、今後の子供の教育環境としてどう対応していくのが好ましいかというアンケートの問に対して、「現状維持」と回答された方は32%、「分離統合」が40%、「学区再編」が10%、「その他」が18%という結果でした。こうしたアンケート結果等を踏まえ、職員で構成する公共施設マネジメント推進本部会議、有識者によります公共施設マネジメント推進委員会、

一般保護者によりますワークショップ、パブリックコメントを経て、まとめさせていただきました。学校教育系施設の再配置方針につきましては20ページの中程、(3)に記載をしておりますが、学校の統廃合等につきましては、教育委員会と協議しながら小規模校の4小学校については教育環境の向上を鑑み、適正規模化に向けた統合校の新設及び既設利用も含めて検討していくといった内容でございます。また小規模校の十四山中学校については他中学校等への統合も検討していくといった内容になっております。統廃合等については児童生徒の保護者に対して丁寧に説明をし、不安や疑問の解消に努めてまいります。計画は40年という長期の計画でありますので、今後施設の利用状況、劣化状況や社会情勢、財政状況が大きく変化することも考えられますので、概ね5年ごとを目処に計画の見直し、内容の充実を図っていくといった内容になっておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。

- 市長より 　ただ今、弥富市公共施設再配置計画(案)につきまして、ご説明をさせていただきました。只今の説明につきまして、教育委員の皆様よりご意見を伺いたいと思います。意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。
- 委員より 　財政の立場からの将来展望についてご説明いただきました。私どももそれは十分にそういった必要性ということを感じております。ただ一つ、こういう言い方をすると誤解を招くかもしれませんが、学校という施設がこれまで地域で果たしてきた役割というのは、例えば他のいろんな施設と同じような観点では計り知れない部分があるわけで、どの学校もほぼ、新しい学校は除いてですね、100年以上の歴史を持っており、そこにいろんな形で関わった人たちが地域住民としておみえになるということで、そういう面では他の施設とは若干異なるそういうものを持っておりまして、逆にこれから先の人材育成という観点でも、そこに1日中、休校のときはあれなんですけれども、子供たちがそこで毎日を過ごす施設であると。たまに行って使う施設ではないということもあまして、将来的な弥富市民というものを作っていく、そういう意味合いでも同じ財政的な論理だけでは図っていただくことはちょっと無理があるのかなという考え方を私はしております。ただ教育をしていくうえで、どの規模が最も子供たちにとってふさわしいのかという観点での見直しをしたりですね、地域の中での学校という、あるいは地域の方々にとっての学校というものをどういうふうに見直していくか。過去のままではないと思います。地域住民も変わっておりますので。そういった観点でもこうい

う見直しをするいい機会であると思っております。それからもう一つですね、そういう観点から考えますと、いわゆる財政的な理由でもって、こうだからこうするぞという形で、いわゆるトップダウンの形でいろんなことを進めると非常に難しい。やっぱり地域住民の方々の考えなり、思いというものを充分斟酌したうえで、それをできるだけ実現の方向に向けながら財政の部分も含めて、新しい方向性を見極めていく必要があるんじゃないかなと。そういう意味で少し時間をとりながら、いろんな機会にそういった意見をいただきながら、その方向性を定めていくというご配慮がいただけたらなということをお思っております。

- 副市長より まず、財政というのは計算上の話ですので、それがもともと総務省が示した中でできているんですけども、この再配置方針の中でも協議委員会の皆様と協力しながら検討していくということになっていますのでこの通りいくという話ではございません。あと先程言いましたように保護者の方にアンケートを取っての、その結果を踏まえての方針の方向性が出ていますので、卒業されちゃった方というのは使われないので、それに懐かしい校舎がなくなってしまうというのは非常に面白くないかもしれませんが、これからお使いになる児童生徒、また赤ちゃんを含めてですね、保護者の方の意見を踏まえたうえでの反映と考えております。それとトップダウンということではございませんので、いろんなパブリックコメントだとか推進委員会、そしてワークショップを踏まえて作ってきたものでございます。いきなり作ったわけじゃなくて11回も検討を踏まえてやってきましたので。これで完全に決定ということではありませんので、書き方としては学校の一部については教育委員会に公的には権限がございまして、教育委員会の皆さんと協議しながら最終的には市民の意見も取り入れたうえで決めていただくということになるかと思えます。どちらにしても全体としては40年のスパンです。ただ児童生徒が非常に少なくなってしまうということは間違いのない事実でありますので。それと先生方の配置に関しては本当に小規模になってしまうと先生が専門的な指導ができないということもお聞きしてしますので、それがクリアできるような方法で、なおかつ保護者の皆様と相談しながら決定していくことになるかなと思っております。この中で統合校となれば、それはそれで魅力あるものにしなければならんと思っておりますので、ただ一緒にしただけではご納得いただけないと思っておりますのでこれからいろんな話をし

ながら進めていきたいと思ひます。そんなことで考えておりますのでよろしくお願ひし
ます。

- 市長より 他にご意見よろしいでしょうか。ありがとうございます。今、副市長から説明させていただきましたが、市のスタンスとしましてはご答弁させていただきましたスタンスで今後も進めて参りたいと思ひます。また教育委員の皆様方のご意見を尊重しながら進めて参りますので、どうぞよろしくお願ひを申し上げます。次でございますが、議題（2）令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について、事務局より説明を願ひます。
- 学校教育主幹より はい、お願ひします。本年度5月に行われました体力テストに基づきまして、先日令和2年1月に結果のほうが届きました。それに基づきまして弥富市における小中学校の、対象は5年生の児童、中学校2年生の生徒の傾向を説明させていただきます。特に特筆すべき点についてのみ、こちらでは述べさせていただきますと思ひます。まずは体格集計でございますが、小学校5年生の男子、女子ともに、比較的県平均、全国平均と変わりがない。やや肥満傾向の子がおるとご理解ください。併せまして、中学校2年生の男子、女子の体格ですが、やはりこちらのほうは男子については肥満の体格が高いです。他の県、全国平均から言つて肥満の割合が高いです。中学校2年生女子については逆に痩せ型の女子が多いということがわかつております。続きまして実技集計でございます。実技につきましては長座体前屈、立ち幅跳び等々、8つの項目の合計点の平均から結果が出ております。下線を引かせていただきましたが、弥富市においては小学校5年生女子が昨年よりも高い値となっております。その他は昨年度の値を下回っております。また女子は小学校5年生、中学校2年生ともに愛知県平均を上回っております。枠の中に囲まれておりますように、ただしという部分で言いますと、若干県平均より、男子は落ちる、女子は県平均を上回るというような結果でございます。3番の児童質問肢から見えてきた傾向でございますが、男女ともに「運動に自信がない」という児童が小学校においては多かったです。ただし運動やスポーツが自身にとって大切であるということは認識しております。続きまして2枚目をご覧ください。運動と直接関わるかどうかはわかりませんが、昨今の事情、DVDの視聴、スマートフォン、パソコンを使って見て過ごす時間が男女ともに毎日5時間以上に該当する児童生徒が10%を超えるなど、かなり多いということがわかつております。そして1週間の総運動

時間が、「1時間未満7時間以上」の割合がそれぞれ多く、結果で言いますと運動量が少ないということも見えてきております。それから併せて中学校2年生の質問肢からですが、「運動が好き」というふうに答えた生徒が全国平均に比べてだいぶ少ないです。男子においては「運動が大切」と考える生徒の割合がやはり少ないと。運動から、運動嫌いといえますか、離れているような傾向も見えてきております。以上でございますが、またその他の点についてはこちらの集計用紙のほう、結果概要書のほうをご覧ください。以上でございます。

- 市長より ありがとうございました。今、運動嫌が多い。大変悲しい、寂しい結果が出ているわけではございますが、これにつきまして教育委員の皆様方、ご意見がありましたらお願いします。
- 教育長より 愛知県は最低、全国最低ですね。
- 学校教育主幹より 今回の統計については全国的な県平均の順位は出ておりませんので、その辺はちょっとわからないんですが。
- 教育長より 去年は一番シリのほうだったね。
- 学校教育主幹より 決して高くはありません。
- 教育長より これね、弥富市の、全国的なあれなんですけれども、二極分化しておるんですね。女の子ならダンスだとか。男の子はサッカー、バスケット、リトルリーグだとか。一生懸命やっとする子はすごい一生懸命やっとするんですけれども、やってない子は全くやってない。ゲームだとかに集中しとってね。昔は皆、外でずっと遊んでいったんですけれども。今は外で遊んでいる子はほとんど見かけなくて、スポーツやっとする子はスポーツやっとするんですけれども、やってない子は全くやってないということだね。こういう二極分化されとるとというのが顕著になって全体的に体力が落ちとるというんじゃないかなと思っております。
- 市長より それを改善するためにはどうしたらいいのかってことですよね。どうですかね。
- 教育長より 小学校では業間でね、季節にね、走れ走れ運動だとか、一輪車でやったりね、いろいろやっとするんですけれども、向上するまではなっていないという。
- 委員より なかなか、私どもが育った次代と比べると非常に便利になったということと、もう一つは家庭がそれぞれ、いわゆる核家族化というか、その中で兄弟が少ないと

ということで、なかなか大人数でいろんなことを一緒にやるという機会が減っているという全体的な傾向はあると思うんですね。これは全国的にそうだと思いますが。本来ならこの地域ならもう少し外でいろいろやってもいいんだけど、なかなかそこまでは実際には家庭に帰ったときにはそういった行動をするという機会が減っているということは間違いありません。もう一つ拍車をかけているのは、社会全体が子供を一人にしておくという、過保護なというか、親さんから言うとあまり外に出したくないというような傾向も強いということが、全体的な体力の低下につながっているのかなと。学校でやることには先生方がそれぞれ頑張っていてやっていただいているんですが、それが地域の中にどう浸透しているかっていう部分ではまだまだ効果がなかなか出ていないかなという事は思いますね。

- 市長より そうですね。社会の問題、地域の問題いろいろあるとは思いますが、平均くらいにはやはりおりたいなとか、市としてもあるもんですから、また皆様方のご協力をいただきながら体力向上に努めて参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。
- 副市長より 昔さ、体力向上のためにいろんなものを買ったよね。予算つけてね。何年かに渡ってやったよね。ああいうのがほしい、こういうのがほしいって、予算を使って、しっかりと体力向上しましょうということでさ、各学校自分自分思い思いのもの、3、4年続いた。予算をつけて。あれ、どうなっちゃったの。
- 市長より いつくらいのときですか。
- 総務部長より いや、そんなに前じゃないですよ。服部市長のときに。
- 教育部長より 私が課長のときに予算をつけさせていただいて、3年位は確かにありました。各学校にいろいろな要望を聞いて、予算つけさせて。いつからないんだろうね。
- 副市長より あれをまともにやっていたらすごい体力が向上すると思うんだけど。
- 教育長より これ、昭和61年が一番体力があるピークで、今40何歳の人で、それからずっと減って、減って、毎年、最低を記録しておるんだでね。国家的・・・。
- 副市長より どっかに倉庫にしまったままになっとらへんかな。いっぱい買ってますよ。相当な使えるやつね。買いましたよね。
- 教育部長より 再度、そういう器具をきちんと使うように。
- 市長より 例えばどういうものを買ったんですか。

- 教育部長より 学校によっていろいろ言われたので。ちょっと。確か縄跳びみたいなものがあったし、それから体育館の中で使うようなものもあったんです。
- 副市長より こんなものいるの？って物まで相当ありましたよ。
- 教育長より あとは非常にあんまりやりすぎると、怪我させて、そのリスクをすごく恐れるところはありませんよ。
- 副市長より ただ、先生が一生懸命考えて、物は申請してきてね、買ってますので。たぶんね、人事異動の中でどっかいつちゃったかもしれんね。一回探してもらったら出てくると思うね。
- 市長より じゃ、ちょっと現場のほうでも確認していきたいと思います。では次にいきます。議題（3）令和2年度施行学習指導要領改訂に向けた取り組みについて、事務局より説明をお願いします。
- 学校教育主幹より はい、お願いします。ではそちらのほうの資料をご覧ください。ここで言うのも手前味噌になると思いますが、令和2年度、来年度から学習指導要領の改定ということで、現在も移行期間ということで既に各学校で取り組みがなされております。もちろんそれに基づきまして、弥富市教育委員会でも適宜指導あるいは助言という形で関与し、今新しく改訂されていく学習指導要領に伴った教育課程のほうスムーズに来年度進められるように準備をしておるところでございます。私の報告書の前に、2ページはねていただいて、色刷りになっているものをまずご覧になっていただけますでしょうか。本当に手前味噌になるかと思いますが、これが文部科学省のホームページに掲載されている、今回、来年度からの学習指導要領の改定のポイントとなっております。丸読みしてもわかりにくいのでかいつまんで説明をさせていただきたいと思いますが、まず改定の基本的な考え方として「生きる力を育成する」ということ。それに伴って、「思考力、判断力、表現力等の育成をバランスを重視して授業日数を確保する」ということ。こちら報道などでよく聞かれると思いますが、「道徳や体育などの充実などによって豊かな心や健やかな身体を育成していく」ということがメインで、今回の改定に至ったとなっております。その下、3番に教育内容の主な改善事項ということでいくつか書かれておりますが、その次のページの、ある教科書会社のほうから出されていたもので、こちらのほうにもう少しわかりやすいと言いますか、私が説明させていただきたいところが載っておりましたので、こちらを使って説明させていただきます。真

ん中の部分を見ていただきたいのですが、学習指導要領の改定の方向性ということで、また後ほど説明させていただきますが授業そのものの改変に大きく関わる部分が掲載されております。「育成を目指す資質能力の3つの柱」ということで、「学びに向かう力、人間性、知識及び技能、思考力判断力表現力」と、赤、青、緑で示されておりますが、これらの力を養っていくということを念頭に各学校においては教育課程を再編する、工夫してカリキュラム・マネジメントと言われますが、再編して特に重きが置かれているのが「どのように学ぶか」というふうに書かれている、「主体的、対話的で深い学び」授業の在り方をもう一度見直しましょうということはずっと言われております。では私の作成した資料に戻っていただいて、今話しをさせていただいたことを特に重点的なことについてまとめさせていただきましたので、こちらを使って説明させていただきます。まず1つ目に「主体的・対話的・深い学び」ということで、よく聞かれる言葉かと思えます。「アクティブ・ラーニング」とも言われております。よく言われていたのが、これまで教授型の授業ということで、教え込みと言われる授業展開というふうに言われておりましたが、これからの時代、社会的な背景を見据えていくと、自分で考える力が必要と。つまり「児童生徒による学び合いを基本とした授業展開に移行しましょう」ということを言われております。この新学習指導要領の改定が言われてから、既に試行段階で取り組んでいる学校も多々ありますし、もちろん私たち教諭現場においてもこちらについては重々話をしながら各学校で取り組みを進めていただいているというところでございます。また先程の文科省から出されていた主な改善事項の中にもありましたが、「授業を通じて言語活動を大切に」「理数教育や伝統文化に関する教育を充実させる」ということで言われておったものについても、弥富市としてはこれまでも授業力向上研修ということで外部講師を招いて、その点についてご指導をいただいたり。あるいは私たち指導主事の立場の人間が学校訪問の機会に各学校においてこちらの話を送達及び指導ということを行ってきました。2点目に「道徳教育の充実」。これも報道でよく聞かれているかと思いますが、大きく言うと、学習指導要領の改定に伴って教科化がされたということ。教科化がされることによって大きなポイントとして授業を通じて道徳の中での、道徳性の高まりについて評価を行うということ。こちらのことと言われておりました。やはり先程述べさせてもらったような向上研修において外部講師の方からも学んでおりますが、様々な実践も県からの研究実習などを受けて各学校でも研究が進められて

おりますし、各学校においては道德教育推進教師を配置し、各学校ごとに工夫を凝らした授業展開を進めておると。また先程と同じように、指導主事のほうから様子を拝見しながら、一番新しい情報を、県などの講習会などから得てきたものをどんどん展開していったという形で道德教育についても充実させていっております。続きまして、外国語教育。こちらのほうも来年度から、特に小学校5、6年生については外国語が、「外国語活動」ではなくて「外国語科」ということで教科科されます。それに伴って弥富市においては既に数年前から専任のアシスタントランゲッジティーチャー（ALT）というものを委託しております、各授業に入っただきながら、生のネイティブの言語で授業を推進しているというところがございます。また中学校においてもオールイングリッシュで授業展開が求められておりますが、中学校においてはもともと専門の教員がついておりますので、各学校で工夫がなされているところがございます。外国語教育を充実されるに至っては、既に弥富市においてはそちらの研究推進委員会というものを、10年ほど前から設置しております、長期休業中に市内の教員を対象とした研修会を実施しております。来年以降もこちらについては継続していく予定でございます。また子供たちが実際に学んだ英語を、外国語を活用する場としてイングリッシュ・キャンプというものを毎年夏休みに催しております。そちらが全てではございませんが、それぞれの活動を約10年にかけて取り組んできているという実績がございます。続きまして、情報活用教育「プログラミング教育」というものも、特にここ数年の報道の中でよく言われておりました。もちろん「プログラミング教育」と言われるだけあって、ICT機器の環境整備を進めていかなければこちらのほうは進みません。こちらについては市内各校、コンピュータ室を既に設けてありまして、また来年度以降も「ギガスクールネットワーク構想」というものがございまして、校内の無線LANの拡充。それからタブレット端末の充実を図っていくというふうに準備を進めています。また併せましてプログラミング教育の考え方と言いますか、推進の進め方ということで、先日冬季休業中に市内教員を対象にして研修会のほうを催しましたし、今後もこの研修会については引き続き行いながら、また複数の資料を学校に届けながら充実をさせていく予定でございます。続いてのページをご覧ください。子供たちの発達の支援についてですが、こちらも先日来、定例の教育委員会では述べさせていただいておりますが、幼保小の連携の推進を進めております。それから障害に応じた指導の工夫についても各学校で整備がなされてきてい

るかと思ひます。他市町に比べましても、何を持って比較というのは難しいんですけど、充実した教育支援の体制が整っているのが弥富市かなというふうに、私も自負しております。その他というところでもう少しだけお願いします。実は先程の学習指導要領の改定に伴って評価の在り方というものが変わりました、ここまでですと、各教科、評価観点が4観点あったものが、次年度から3観点に変わるということで、評価については先程述べさせてもらった3つの柱をベースに評価活動を行っていきます。実はこの部分が各学校の教員を一番考えさせられている部分でもございまして、もちろんスムーズに移行ができるようにこちらにおいても指導は進めておりますし、様々な場面で助言はしていております。それから部活動の意義や指導の工夫。こちらのほうも市としては昨今の多忙化解消にも絡めてなんですけれど、部活動の時間を精選するように強く訴えかけております。主権者教育、消費者教育、防災安全教育など、こういったものについての充実を図ることについても様々な諸機関と連携を図りながら進めているところでございます。以上、令和2年度施工の学習指導要領改定に向けた取り組みについての説明を終わらせていただきます。

- 市長より ありがとうございます。今、改定に向けた取り組みについて説明をしましたが、これについきまして委員の皆様ご意見がございましたらお願いします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。私のほうへきとりました議題は3つでございますが、これについきましてはこれで終了させていただきたいと思ひます。この後の進行を事務局のほうへお渡ししますので、ご協力ありがとうございました。

.....○.....

4. その他

- 学校教育課長より それでは、その他ですけれども。お願いします。
- 教育長より 今日の自主登校の現状を報告させていただきます。8時半から受付まして、弥生小学校が45人、桜小学校が34人、大藤小学校が25人、栄南小学校が10人、白鳥小学校が20人、十四山東部小学校が1人、十四山西部小が15人、日の出小学校が30人ということで、いずれも1割未満ということで。来週9日から児童クラブが8時からやるということで、更に減ってくるものと思ひられます。現状を見てみると広い教室で3人くらいが離れ離れになって、ずっと時間割に沿って自習しているというこ

とで、放課、放課は遊び時間にあてられておりますけれども。1日ずっとそうやっとならしんどいやろうなというのが感想でした。特に大きい現場などの混乱はございませんでした。以上です。

- 学校教育課長より ありがとうございました。何か。
- 副市長より これってここから学童保育に行った人はおりました。
- 教育長より 夕方学童保育に行く子はおります。
- 副市長より うちの職員が行きましたか。
- 教育長より 学校が、すぐ近くのところは送って行きますし、遠い白鳥小と日の出小については教育委員会も協力して送っていくというふうにしております。
- 副市長より 児童課が行くと言っていたけどよかったですか。
- 教育長より ま、同時に。ありがとうございます。
- 学校教育課長より ありがとうございます。他に何かありませんか。よろしいでしょうか。ではこれを持ちまして第2回総合教育会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。